

事務事業評価(事前評価)シート【平成30年度】

主管課(担当名)	総合政策室(総合政策担当)	事業区分	■実施計画 □重点プロジェクト
事務事業名	根室本線花咲線維持確保対策事業	事業番号	12744

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	2-8	地域交通の維持確保
	施策目標	市民生活を支える交通環境が充実したまち	

2 事務事業の目的

目的	JR北海道による事業範囲見直しに係る動きに関し、花咲線の魅力化向上による利用促進PR事業や花咲線を支える機運の醸成につながる市民活動助成金の交付により花咲線の利用客の増加を目指し、沿線自治体等における協議会の活動により、花咲線の維持・存続に向けた活動を展開する。
成果	北方領土隣接地域と道央圏を結ぶ唯一の鉄路として、人的・物的交流を支える国策上重要な位置づけにあり、また、広域観光周遊ルートの形成に重要な役割を持つ路線であることから、市民の通学や通院など沿線地域住民の安全安心な日常生活の維持及び根室本線花咲線を維持・存続する。
実施方法	■直営(市が直接実施) ■補助(民間等に補助) ■委託(民間等に委託) □その他
事務区分	■自治事務 □法定受託事務

3 事務事業の概要

事務事業の概要	年度	概要						
	28							
	29							
	30							JR花咲線の維持・存続に向けた議論・検討をし、利用促進PR等を実施
	31							JR花咲線の維持・存続に向けた議論・検討をし、利用促進PR等を実施
	32							JR花咲線の維持・存続に向けた議論・検討をし、利用促進PR等を実施
事業費と内訳	(単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	総事業費	
	事業費			33,311	33,311	33,311	99,933	
	内訳	国庫支出金						
		道支出金						
		地方債						
		その他			33,311	33,311	33,311	99,933
		一般財源						
	人員(人工)			0.17	0.17	0.17	0.51	
職員費(人員×7,679千円)			1,308	1,308	1,308	3,924		
総事業費			34,619	34,619	34,619	103,857		
維持管理	管理主体							
	運営方法							
	維持管理費	施設維持費						
		概算人件費						
合計/年								

4 事務事業の現状と課題

活動指標	指標名	計画値 (H29)	目標値 (H32)	目標値 (H37)
		輸送密度の増加(根室本線・花咲線)	457人	500人
	花咲線普及促進活動助成金活用団体数	-	2件	4件
事務事業改善策 (継続事業のみ記入)				

5 事務事業の効果について

取組みに当たって期待される効果など	花咲線の魅力化向上による利用促進PR事業や花咲線を地域で支える機運の醸成につながる市民活動助成金の交付により、主に観光利用での利用者の増加を期待することで、営業収入の増加により花咲線の営業収支の改善につなげる効果が期待される。
-------------------	---

ア. 市民ニーズ	<input type="checkbox"/> かなりのニーズがある <input checked="" type="checkbox"/> ニーズはある <input type="checkbox"/> ニーズはあまりない 高校生の通学や高齢者の通院など、日常生活に欠かせないものであることから、また、観光事業者においても全国と繋がっている鉄道の重要性はあり、維持・存続を求める市民ニーズはある。
イ. 市が実施する必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべきである <input type="checkbox"/> 市の実施について検討の余地あり <input type="checkbox"/> 市以外で実施可能である 地方公共団体は、交通に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、区域の諸条件に応じた施策を策定し、実施する責務があり、市が実施すべきである。
ウ. 事業の緊急性	<input type="checkbox"/> 緊急性が高い <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性はある <input type="checkbox"/> 緊急性はない JR北海道が公表した維持困難線区に花咲線が含まれていることから、早期に維持・存続に向けた議論・取り組みが必要である。
エ. 手段の適切性	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 現状として妥当である <input type="checkbox"/> 検討の可能性はある 沿線自治体等での協議の場を持つための負担をしながら、利用客の増加につながる利用促進の取組んでおり、現状として妥当である。
オ. 事業の公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 公平性は高い <input type="checkbox"/> 概ね公平である <input type="checkbox"/> 改善の余地はある 公共交通の維持確保についての取組みであり、将来の交通基盤の確保につながるものであることから公平性は高い。
カ. 事業の有効性	<input type="checkbox"/> 本事業の有効性が高い <input checked="" type="checkbox"/> 本事業の有効性がある <input type="checkbox"/> 既存事業と大きな差はない 花咲線の維持は、交通弱者の移動手段を確保に加え、北方領土隣接地域の今後の発展の可能性の面でも必要な事業であることから、有効性は高い。

7 今後の事業の進め方

ア. 総合政策部で付された意見	【速やかに実施】 根室本線花咲線は、北方領土隣接地域と道央圏を結ぶ唯一の鉄道として、国策上重要な位置づけにあり、また、広域観光周遊ルートとして、沿線地域住民の日常生活として欠かすことのできない重要な移動手段であることから、根室本線花咲線を維持・存続に向けた事業推進を図られたい。
イ. アを踏まえ、担当部局の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり着手が適当 <input type="checkbox"/> 再検討し実施する <input type="checkbox"/> 着手を延期する 事業者、沿線自治体が一体となり、維持・存続に向けた議論及び対策に取り組むとともに、地域で支える機運醸成に向けた活動の促進や利用促進PR等を実施し、JR花咲線の維持・存続に向けた事業の推進を図る。

作成年月 平成30年6月